

SUMIF関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

SUMIF関数の「3つの引数」を理解する

SUMIF関数の「3つの引数」を理解する

SUMIF関数は、たった1つの条件でデータを合計する、シンプルながら強力な関数です。引数（ひきすう）の順番を間違えないことが最初のステップです。

=SUMIF(範囲, 検索条件, [合計範囲])

引数	内容
① 範囲	条件を探す場所（例：支店名の列 A:A ）
② 検索条件	合計したい条件（例： "東京" ）
③ 合計範囲	実際に計算する数値の場所（例：売上金額の列 C:C ）

 **ポイント**：「どこから(範囲)」、「何を探して(条件)」、「何を足すか(合計範囲)」の順です。
第3引数を省略すると、第1引数の範囲が合計されます。

※

【保存版】 検索条件の「書き方」カタログ

【保存版】検索条件の「書き方」カタログ

「1000円以上」「東京を含む」など、実務で頻出する条件指定の書き方をまとめました。ダブルクォーテーション（"）で囲むのが非常に重要なルールです。

条件の種類	書き方のルール	具体例
完全一致	そのまま文字を入れる	"東京"（東京と一致するもの）
〇〇以上	不等号 >= を使う	">=1000"（1000以上の数値）
〇〇より大きい	不等号 > を使う	">1000"（1001以上の数値）
〇〇以下	不等号 <= を使う	"<=2025/4/1"（日付も数値としての扱いが可能）
〇〇以外	不等号 <> を使う	"<>キャンセル"（キャンセル以外）
〇〇を含む	ワイルドカード *	"*セット*"（「セット」の前後に何があってもOK）

【実践テクニック】セル参照と & (アンパサンド)

【実践テクニック】セル参照と & (アンパサンド)

条件を数式に直接書き込む ("東京"など) と、条件が変わるたびに数式修正が必要で手間がかかります。

「セルに入力された値」を条件にする方法をマスターしましょう。

シナリオ: E1セルに「東京」と入力したら、自動で東京の合計を出したい。

数式パターン:

1. 文字と一致: `=SUMIF(A:A, E1, C:C)`

ダブルクォーテーション (") は不要です。そのままセル番地を指定します。

2. ○○以上 (不等号 + セル): `=SUMIF(C:C, ">=" & E1, C:C)`

ここが最重要！ 不等号はダブルクォーテーション (") で囲み、セル番地とは アンパサンド (&) でつなぎます。

【注意】 よくある間違いとSUMIFSへのステップ

【注意】よくある間違いとSUMIFSへのステップ

実務でよくあるトラブルと、その解決策です。

トラブル	原因と対策
合計が0になる	原因： データに不要なスペースが入っている ("東京 ") か、数値が「文字列」になっている。 対策： TRIM関数でスペースを消すか、データの表示形式を確認する。
「範囲」と「合計範囲」の指定を間違える	原因： 「範囲」は2行目から、「合計範囲」は1行目から指定している。 対策： 必ず行の範囲（高さ）を揃える。（例：A2:A100 と C2:C100）
条件を2つ以上入れたい	SUMIFでは条件を1つしか指定できません 「東京」かつ「PC」のような複数条件には、SUMIFS関数（最後にSがつく）を使用する。引数の順番が逆になるので注意が必要。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。